

情報リテラシー教育と学生の反応

- 文献探索法講義の実践から -

菅原 春雄*

Information Literacy Education and Student Reaction : Lecturing on Reference Searching Methods

Haruo SUGAWARA

この小論は平成13年度文教大学女子短期大学で一般教科目の総合科目の一環として情報リテラシーを中心とした「文献探索法」4コマを担当した。

内容は情報リテラシーの必要性和短大における情報リテラシー「文献探索法の講義概要」1. 情報源の拠点, 図書館の概要. 図書館の構成要素, 図書館サービス 2. 情報源として図書, 逐次刊行物, 雑誌. 新聞. 小冊子. 視聴覚資料. 電子資料の解説 3. 情報検索としてカード目録. コンピュータ目録等 4. 表現としてレポート, 論文の書き方についての講義と受講生の反応を考察し, 情報探索法すなわち情報リテラシーは学生の基礎知識として欠くことのできない科目であることを強調した。

1 はじめに

情報リテラシー教育は一般的にコンピュータ教育をイメージするが図書館界および、図書館情報学界では情報活用教育ないし図書館利用教育ともいっている。

2 情報リテラシーの必要性

情報の活用能力「情報リテラシー」を身につけることは、人間の成長と自立の大切な要素であり、それは情報化社会・生涯学習社会といわれるこの時代を生きるすべての人にとって欠くことのできない基礎的能力である。

A・トフラーが「未来の衝撃」の中で「明

日の文盲とは、読むことのできない人のことではないだろう。それは、学ぶ方法を学んだことのない人のことだろう」といい、生涯学習の基礎の必要性を強調したことばである。

学ぶ方法は調べ学習の基礎であり、情報リテラシーは「ライブラリー・リテラシー+コンピュータ・リテラシー」である。

この情報活用能力の習得の効果には学生生活や生涯学習の基礎として学習、研究、調査等の情報探索の活用に有効な技法である。

学校教育ではなんか疑問や問題解決・調査したいという場合どうやって調べるか「そのプロセス」すなわち、情報がどこに、何があるか、どう収集して、どう加工して、仕上げるか」という、このような知識や学習をいままで教わったことがあるか？

* すがわら はるお 文教大学教育学部学校教育課程

2 - 1 学校

2004年4月からの新学習指導要領の本格的な実施に伴い、特に新設の「総合的な学習の時間」においては、児童生徒が「自から課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力」が育ち、「学び方やものの考え方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り込む態度」が身に付くような学習指導法が要求される。総合的な学習に限らず、各教科、領域における「調べる」学習においても、これらの資質や能力、態度は大切であり、これからは、ますます「学び方」が身につく指導が重要になってくる。

そのためには、様々な情報やメディアを活用し学習に生かす「学び方」の指導「情報メディアリテラシー」が必要とされる。とりわけ学校図書館に備えられている図書・資料ビデオやCDなどの視聴覚資料、CD-ROMやDVDなどのデジタル資料、インターネットなどの情報やメディアを活用し、主体的に学ぶ方法を児童・生徒が自ら習得していくことが生涯にわたって「生きる力」となり、重要な課題である。「学校図書館2002.3月号」P18「必要性はいうまでもなく「学校図書館法は「第4条4図書館資料その他学校図書館の利用に関し、児童または生徒に対し指導をおこなうこと」と明記されたり、学校図書館基準のIにも図書館の利用指導項目で15項目があげられている。

総合学習、調べ学習の基礎として学校図書館の有効的活用が現学習指導要領でも強調されているが、若干の変化が発見できる。すなわち、図書・図書館という項目から、情報、メディアをどう学習に使用するか、情報、学習というキーワードへの発展である。特に全国学校図書館協議会では「情報・メディアを活用する学び方の体系表「2004年4月」では1、学習と情報・メディア 2、学習に役立つメディアの使い方 3、情報の活用の仕方

4、学習効果のまとめ方を提示、学ぶ方を学ぶ者からの意識化をはかっている。

2 - 2 大学

小・中高校教育では、長い間の司書教諭の未配置や利用教育への関心の無さ等により大学では改めて情報活用教育の必要にせまられ、図書館のオリエンテーションの初歩的指導「オリエンテーション」や一般教養科目、選択科目等さまざまな名称で学生からの要望や、教授陣の要望に応じて実施しているところが多い。大学で実施しているところを2.3紹介すれば、東京大学での教養科目「知の技法」明治大学学部間共通総合科目「図書館活用法や京都大学教養科目「大学生と情報の活用 - 情報探索入門」1大学図書館への招待、2分類の一般概念と分類理論、3文献や情報の広がりや研究4文献と情報の所在を突き止める、5データベースの種類とその活用法、6インターネット情報とその活用法、7論文やレポートを書く手立てを知る、8情報探索とその周辺、慶応大学学部1年対象「情報リテラシー入門」1.情報リテラシーとは、2.文献を探す前に、3.図書を探す「和書・洋書」4.雑誌論文。雑誌記事を探す、5.新聞記事を探す、6.その他の情報を探す、7.書誌情報の書き方。駿河台大学教養科目、資料検索法2単位、論文執筆法2 研究調査法2 プレゼンテーション2、亜細亜大学全学部基礎共通科目「情報リテラシー」京都精華大学全学必修「研究調査法」久留米大学では教養演習「情報リテラシー等。生涯学習社会でも情報リテラシーが必要と2000.11.では「新しい情報通信技術を活用した生涯学習の推進方策について」生涯学習審議会が答申している、また全図書館を対象とした図書館利用教育ガイドラインとくに図書館における情報リテラシー支援サービスのためにとして日本図書館協会から冊子が出版している。これも生涯学習の基礎として大いに参考になる。内容は図

書館利用教育ガイドラインとして領域1印象
付け 2サービス案内 3情報検索法指導 4情報
整理法指導 5情報表現法指導を示している。

* 文献探索のための参考文献 菅原作成
参照

3 文献探索法講義概要

3 - 1 情報源の拠点

情報提供機関 情報センター情報源のある
ところ

1 図書館 定義

図書館の種類 公共図書館「国立国会図
書館」大学図書館 学校図書館 専門図
書館 図書館類縁機関

* VTR 情報基地への招待」放映

2 図書館の構成要素

1 資料-メディア, 2 職員

3 施設 4 利用者

3 情報提供サービス「パブリック・サービス」

閲覧-読書案内, リクエストサービス,
コピーサービス・集会活動・読み
聞かせ・レファレンスサービス
貸出-個人・団体貸出 自動車文庫
宅配サービス

* VTR ; 情報基地への招待 放映

3 - 2 情報源-メディア - 図書館資料

全体の解説」

種類

図書の種類

分類別 - 日本十進分類法による分類

参考図書「調べる本」のガイドブック

* 日本の参考図書解説総覧 JLA 現物
参照

* 情報源としてのレファレンスブック
/ 長沢雅夫ほか著 JLA

* 学校図書館参考図書研究ガイド SLA

参考図書 その種類

0 案内指示的参考図書

書誌 - 著者・書名・出版社・等並べたリスト

目録 - 書誌目録・所蔵目録・総合目録

索引 - 日本随筆索引・雑誌記事索引

0 事実解説的参考図書

辞書「音順・総画・部首」百科事典
「総合 - 主題別」. 便覧 図鑑

年表 年鑑 統計書 地図 地名事典

人名事典 名鑑

3 - 3 情報検索のTOOL

0 目録検索キー

* カード目録

書名 副書名 叢書名

著者 訳者 編者

分類

件名

* コンピュータ・インターネット検索

書名, 著者 分類 件名 出版年
出版社 ISBN等から

0 分類 日本十進分類法の理解

0 総記 図書館 百科辞典 一般論文集 博物館 新聞

1 哲学 心理学 倫理 道德 宗教
仏教 キリスト教

2 歴史 日本歴史 東洋史 西洋史
伝記 地理

3 社会科学 政治 法律 経済 社会
教育 風俗

4 自然科学 数学 物理 化学 医学
栄養 食品

5 工業 家政学

6 産業 農業 商業 交通 放送

7 芸術 美術 芸術 映画 スポーツ

8 語学 日本語「国語」中国語 英語
フランス語 ドイツ語

9 文学 日本文学 中国文学 西洋文学
参考 VTR 分類と目録, 文献検索法の基礎

新聞の調べ方,

雑誌の調べ方 図書の調べ方 放映

- 3 - 4 表現 レポート・論文の作成法
 レポート，論文を書くための基本的調査プロセスをVTR「図書館の達人 - レポートの書き方」で解説
- ステップ1
 テーマを決める
 テーマを絞り込む
- ステップ2
 バックグラウンドとなる情報を得る
 百科事典，参考図書などでそのテーマの概略を知る
 検索の手がかりのキーワードを探す
- ステップ3
 仮のアウトラインを作る
- ステップ4
 必要文献を探す
 図書館資料 - 情報源の検索法スキルが有効
 * 参考図書の検索「日本の参考図書」解説
- ステップ5
 文献の入手，情報の入手
 各種情報源から 「出版情報・所蔵情報」複製 著作権法の解説
- ステップ6
 資料を読み情報カードにメモをとる
 参考文献 引用・出典の記録「著作権法の解説」
- ステップ7
 最終アウトラインを作る
- ステップ8
 執筆と推敲
- ステップ9
 参考文献リスト，注の作成「著作権法解説」
- ステップ10
 仕上げと提出
 * レポート・論文の書き方に関する参考文献の紹介 菅原作成

- 4 情報リテラシーの講義を受けて
 アンケート調査集計
 2003 .1 「受講者54名中」
- 1 情報リテラシー講義の必要性について
 1 必要と思う 34名
 2 必要と思わない 18名
 * 学習の基礎として情報リテラシー，すなわち文献の探索法の基礎知識が必要との認識が理解された
- 2 このような科目を必要とすれば教養科目で必修科目で，選択科目で置か
 1 必修科目 9名
 2 選択科目 36名
 3 置かなくてもよい 9名
 * 必修科目ではいやだが教養として選択科目なら自分の知識として習得しておいたほうがよいとおもわれる
- 3 図書を探す道具「NDC日本十進分類法」のこと，今まで知っていましたか
 1 知っていた 6名
 2 知らなかった 47名
 * 学校教育で図書館利用教育があまり行われていないことがわかった
- 4 文献のさがし方について，今まで知っていましたか
 1 知っていた 18名
 2 知らなかった 38名
 * 学校で調べ方学習が実施されていないことがわかった
- 5 参考図書「レファレンスブック」 - 調べる本 - について，今まで知っていましたか
 1 知っていた 4名
 2 知らなかった 48名
 * 調べる道具としての参考図書についても学校で教えなかったことがわかった
- 6 著作権についての知識，今まで知っていましたか
 1 知っていた 26名
 2 知らなかった 30名

* 学校教育で著作権問題について教えておくべきである

7 レポートの書き方について、今まで教わったことありましたか

- | | |
|-------|-------------|
| 1 あった | 13名 |
| | 高校で8名 大学で4名 |
| 2 ない | 40名 |

5 この講義を聴いて参考になったこと

学生の反応

文教大学女子短期大学教養科目総合講座

「情報リテラシー；文献探索法」受講生の声

以前から正しいレポートの書き方を知りたいとは思っていましたが、誰に聞けばいいか、わからなくて困っていました。今回の講義を通して、レポートの書き方がわかってよかったです。10のステップをもちいてレポートを書いていこうと思います。

レポートの書き方や文献の探し方がいままでは知らなかったため、今回役に立ちました。

この授業を受けて今までより広く図書館利用ができるとおもった。またレポートの書き方も教わったことがなく、前に困ったことがあったのでしる事ができてよかった。いままではPCを使い、図書館に入っている文献を調べられることは知らなかった。

いままでは、このような知識が全くなかったため、今後文献を探すとき役立つと思う。

図書館にある本は伝記、小説、物語などといった部類のものだけだと思いましたがこの講義で、調べる本「レファレンスブック」の存在を初めて知りました。

レポートの書き方は高校の時少し習いまし

たが、このように詳しく教えてもらったことはなかったため、参考になりました。

いままでは、どうやってレポートを書けばいいかわからなくて大変だったけど、この講義を受けてレポートの書き方等が詳しくわかったため良かったと思う。

NDCのことは知らなかったけど、数字だけなら知っていた。また参考文献まで書くことは知らなかった。

レポート、論文の書き方はいままでは、この授業のように教えてもらったことはありませんでした。今回、レポート作成におけるステップ10までのビデオでは、これからのレポート提出に大変参考になり、順序をすべて良かったです。図書館は私もよく利用するので、正しい検索方法を生かしてより堅い利用を心がけたいと思いました。

図書館について、本のさがし方などの使い方を知ることができたことは、私にとってとてもプラスになったと思います。レポート・論文の書き方もこんなに詳しく習ったことは初めてでした。春学期のレポート提出の時は何をどうしていいのかわからず、ただ必死に書いてた感じでした。この講義で習ったことを大事にし、これからの生活に役立てたいと思います。

レポートの描き方や参考図書のさがし方などいままではレポートを書いたりしても、きちんとした書き方は知りませんでした。図書館でも、本を借りることはあっても本のさがし方にいろいろ方法があることも知らなかったし、新しく学ぶことができたことがいくつかありました。

レポートの描き方はとても参考になりました。調べていくうちに内容がずれたりしがちですが、これから順序よく組み立てることができるので、レポートを頑張ってみたいと思います。

正直、いままでレポートの書き方というのが、どうすればよいのか、さっぱりわからない状態だったので、この講義で学んだ文献のさがし方、レポートの書き方を今後生かせたらよいと思いました。

今までレポートを書いたことは沢山あったが、きちんとした書き方を教わったことはなかったので、本の丸写しとか多かったけれど、この授業を受けて、本のさがし方や情報の見つけ方やレポートの書き方など根本的なことをいままで知らないこと気づき、できればもっとはやくにおそわってあげればよかったのにとおもいました。この授業を受けて良かったと思います。

この講義をとらなかつたら、レポートの書き方や作り方など知る機会はなかったと思います。必修科目ではなく選択科目だったら他に取る人もいます。高校で習っておいたほうがよいと思います。

6 結論

学校教育で「図書館利用教育」(情報を活用する学び方の指導)は教えるべきである。

全体的感想として情報リテラシーすなわち図書館活用能力がいかにかアンケートでも証明できた。学校では学習指導要領でも各科教科においても図書館における資料を活用して情報処理能力の育成に努力すべきとあり、また特別教育活動でも図書館利用教育の必要性が明記されているにもかかわらず実施していない、また兼任の司書教諭の配置すら12学級以上の学校未配置校の多いのも問題。いま

や生涯学習時代にいける情報リテラシーは学校教育だけでなく生涯学習の基礎として情報の収集、処理、加工、表現のプロセスすなわち情報活用能力は必要不可欠な技法である。兼任司書教諭とはいえ、2003年4月1日から配置されつつあるので学校司書など他のスタッフとの協働により、情報リテラシーの充実・発展・習慣化を期待したい。最後にこの原稿を多忙のおり校閲してくださいました元文教大学司書教諭課程非常勤講師・全国学校図書館協議会参与、平塚禪定先生に厚くお礼を申しあげたい。

参考文献

図書

- 1) A・トフラー著・徳山二郎訳/未来の衝撃 中央公論社 1982
- 2) 室伏武著/情報活用能力とその指導 第一法規 1989
- 3) 藤田節子著/社会人のための図書館活用術 日外アソシエーツ 1993
- 4) 藤田節子著/新訂図書館活用術/：探す・調べる・知る・学ぶ 日外アソシエーツ 2002
- 5) 藤田節子著/自分でできる情報探索 筑摩書房「ちくま新書」 1997
- 6) 情報アクセス研究会編/現代人のための情報・文献調査マニュアル 青弓社 1990
- 7) 日本図書館研究会編/大学生と図書館 日本図書館研究会 1981
- 8) 川崎良孝編/大学生と情報の活用;情報探索入門 京都大学図書館情報学研究会 1999
- 9) 慶應義塾大学日吉メディアセンター編/情報リテラシー入門 慶應義塾大学出版会 2002.
- 10) 斎藤孝ほか著/文献を探す本 日本エディタースクール 1989
- 11) 毛利和弘著/文献探索法の基礎2000/;レポート・論文作成,調査必携 アジア書房 平成12
- 12) 三輪真木子著/情報検索のスキル 中央公論社 2003
- 13) エームス・E・ヘリング著須永之訳/学校における情報活用教育 日本図書館協会 2002
- 14) 長田秀一ほか著/情報リテラシー教育;コンピュータリテラシーを超えて サンウエイ出版 1999

- 15) 山形県鶴岡市立朝暘第一小学校編著 / 学校図書館活用教育ハンドブック ; こうすれば子どもが育つ学校が変わる 国土社 2003
- 16) 日本図書館協会学校図書館部会編 / 学校図書館における情報教育 ; 第33回研究集会東京大会 日本図書館協会 2003
- 17) 日本図書館協会図書館利用教育委員会編 / 図書館利用教育ガイドライン合冊版 ; 図書館における情報リテラシー支援サービスのために 日本図書館協会 2001
- 18) 丸本郁子ほか編 / 大学図書館の利用者教育 日本図書館協会 1989
- 19) 後藤満彦著 / 中学・高校の利用指導の実際 全国学校図書館協議会 1984
- 20) 袖ヶ浦市教育委員会編 / 袖ヶ浦市立小学校学び方ガイド 袖ヶ浦市立総合教育センター 2002
- 21) 袖ヶ浦市教育委員会編 / 袖ヶ浦市立中学校学び方ガイド 袖ヶ浦市立総合教育センター 2002
- 22) 山崎哲男著 / 調べ学習のための図書館利用法 ポプラ社 1994
- 23) 宅間紘一著 / 学校図書館を活用する学び方の指導 全国学校図書館協議会 2002
- 「学校図書館」第617号 2002.3 p18 - 20
* 文献探索のための参考文献 菅原作成 参照
- 01) 川喜田二郎著 / 発想法 中公新書 中央公論社 1984
- 02) 野口悠紀雄著 / 整理法 中公新書 中央公論社 1984
- 03) 加藤秀俊著 / 取材学 / 中公新書 中央公論社 1975
- 04) 藤田節子著 / 新訂図書館活用術 / : 探す・調べる・知る. 学ぶ 日外アソシエーツ 2002
- 05) 藤田節子著 / 自分でできる情報探索 ちくま新書 / 筑摩書房 1997
- 06) 藤田節子著 / 学生・社会人のための図書館活用術 日外アソシエーツ 1993
- 07) 藤田節子著 / 情報整理・探索に活かす ; インデックスのテクニック 共立出版 2001
- 08) 情報アクセス研究会編 / 現代人のための情報・文献調査マニュアル 青弓社 1990
- 09) 大串夏身著 / チャート式情報・文献アクセスガイド 青弓社 1992
- 10) 日本図書館研究会編 / 大学生と図書館 日本図書館研究会 1981
- 11) 川崎良孝編 / 大学生と情報の活用 / 京都大学 1999
- 12) 斉藤孝ほか著 / 文献を探す本 日本エディターズスクール 1989
- 13) 池田祥子著 / 文科系学生のための文献調査 青弓社 1995
- 14) 毛利和弘著 / 文献検索法の基礎 アジア書房 平成12
- 15) 三輪真木子著 / 情報検索のスキル 中央公論社 2003
- 16) 宮内泰介著 / 自分で調べる技術 ; 市民のための調査入門 岩波書店 2004
- * レポート・論文の書き方に関する参考文献 菅原作成
- 01 清水幾太郎著 / 論文の書き方 岩波書店 1959
- 02 江川純著 / レポート・小論文の書き方 日本経済新聞社 1998
- 03 木下是雄著 / レポートの組み立て方 筑摩書房 1994
- 04 池田一臣著 / すぐに役立つ小論文の書き方 池田書店 1996
- 05 板垣秀憲著 / すらすら書ける作文・小論文 実業乃日本社 1996

雑誌論文

- 1) 菅原春雄著 学び方教育の推進について 図書館科学会年報 昭和39 1983 p9 - 13
- 2) 菅原春雄著 学校教育における利用指導の概況 ; 大学・短大での利用教育を目指して「短期大学図書館研究」第8号 1988 p26 - 33」
- 3) 菅原春雄著 : 図書館の活用法 ; 学習の基礎 「文教大学女子短期大学部研究紀要」第39集 1995 p67 - p77
- 4) 菅原春雄著 : 利用教育を実施してみても ; 文献探索法 「短期大学図書館研究」第16号 1996 p31 - 39
- 5) 増田和子著 ; 情報リテラシー教育の研究動向 「図書館情報学研究」2 2003. p39 - p63
- 6) 安藤友張 ; 「情報リテラシー」「情報リテラシー教育」「図書館利用教育」をめぐる最近の動向 「短期大学図書館研究」23 2003. p19 - p25」
- 7) 宮内美智子著 ; 情報リテラシー教育のあり方 ; 一般教育において 「青葉学園短期大学紀要」28 2003 p107 - 116p」
- 8) 森 洋三著 ; 学校図書館メディアリテラシー

- | | |
|---|---|
| 06 澤田昭夫著 / 論文の書き方 講談社 1977 | 14 安藤喜久雄編 / わかりやすい論文レポートの書き方 有楽出版社 1999 |
| 07 保坂弘司著 / レポート・論文の書き方 講談社 1978 | 15 鷲田小弥太著 / 論文の書き方入門 PHP研究所 1999 |
| 08 木下是雄著 / 理科系の作文技術 中央公論社 1981 | 16 小笠原喜康著 / 大学生のためのレポート・論文術 講談社 2002 |
| 09 馬場博治著 / 小論文の書き方 創元社 1988 | 17 江下雅之著 / レポートの作り方 中央公論社 2003 |
| 10 三木正著 / 論文・レポートの書き方 実業乃日本社 1988 | 18 井出翁・藤田節子共著 / レポート作成法 日外アソシエーツ 2003 |
| 11 古郡廷治著 / 論文・レポートのまとめ方 筑摩書房 1997 | 19 関口礼子著 : レポートのまとめかた ; 引用・参考分の記載のしかた 「学校図書館」第617号 2003.3 p26 - 29
ほか多数あり 各図書館蔵書から検索されたい |
| 12 桜井雅夫著 / レポート・論文の書き方 - 上級 慶應義塾大学出版会 1998 | |
| 13 河野哲也著 / レポート・論文の書き方入門 / 改訂版 慶應義塾大学出版会 1998 | |